

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

麦類赤かび病の防除対策の徹底について

麦類赤かび病の防除適期は、小麦は開花始め～開花期（出穂期の約 7～10 日後）、大麦は葍殻抽出期（出穂期の約 2 週間後）です。本年産麦類の出穂期は、平年より早くなる見込みですが、播種時期や麦種等によって大きく異なります。

については、下記事項を参考に、圃場の観察に基づく適期防除を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 麦類の生育状況

小麦、大麦の出穂期の平年値は下表のとおりであるが、本年産麦類の出穂期は平年より早くなる見込みである（佐賀県農業試験研究センター・佐賀県米麦改良協会：令和 5 年 3 月 20 日付け麦づくり情報第 4 号）。

表 出穂期の平年値

品種	播種期 (月/日)	出穂期 平年値 (月/日)
シロガネコムギ	11/21	3/31
	12/9	4/8
サチホゴールデン	12/1	3/28
	12/9	4/3
はるか二条	12/1	3/28
	12/9	4/1

※麦づくり情報第 4 号より抜粋

【参考】小麦の出穂期予測

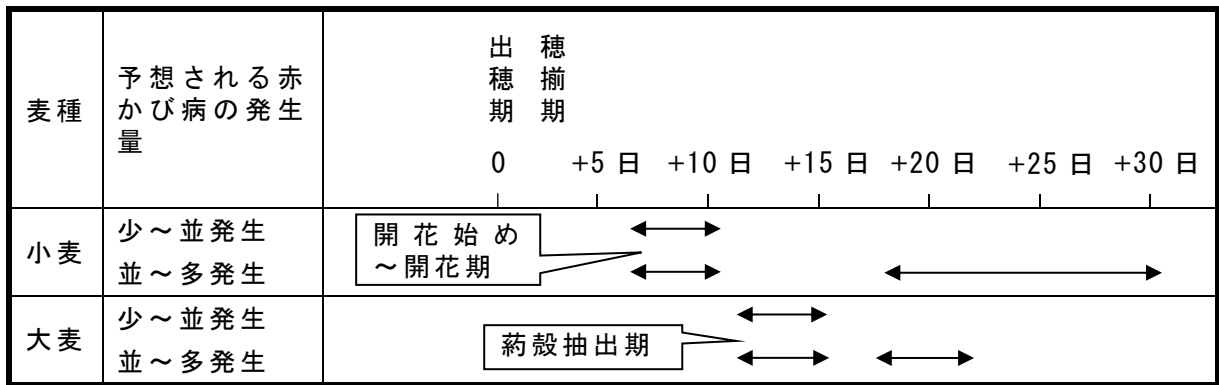
農研機構の成果情報として、「リアルタイムアメダスを用いた小麦の出穂・成熟予測システム」が WEB 上に公開されているのでご活用ください。

URL :

https://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html


2. 防除対策

- (1)小麦の場合、開花始め～開花期（出穂期の約 7～10 日後）の赤かび病防除は、発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、開花 10～20 日後頃に 2 回目の散布を行うと効果が高まる（図 1）。なお、本病の発生が多いパン用小麦については、2 回防除を基本とする。
- (2)大麦の場合、葍殻抽出期（出穂期の約 2 週間後）の赤かび病防除は発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、その 7 日後頃に 2 回目の散布を行うと効果が高まる（図 1）。なお、本病にやや弱い「はるか二条」については、2 回防除を基本とする。
- (3)出穂期は、播種時期や圃場条件、今後の気象等によって異なるため、必ず圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。



- 注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。
 注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。
 注3) 大麦の葯殻抽出期とは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。
 注5) 矢印は防除適期を示す

図1 赤かび病の防除適期

<p>連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部 〒840-2205 佐賀市川副町南里1088 TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085 Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html 防除のてびき掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html</p>	<p>防除セ QRコード</p> 	<p>てびき QRコード</p> 
---	---	---